

縄文集落の新地平3開催要項

1. シンポの名称・日時・開催体制

名称：縄文集落研究の新地平3　－勝坂から曾利へ－
日時：2004.07.24～07.25
会場：帝京大学山梨文化財研究所
開催体制：縄文集落研究グループ、セツルメント研究会主催。
財政はセツルメント研究会で一本化。
連絡体制：horizon3@freeml.comへの投稿により全員に配信。

2. 当日プログラム

- (1)1日目（土器論中心）発表者の変更は域内で調整の上報告願います。
- ・研究史、学史上著名な資料について：山本
新地平1編年の補足（発表は9c期と10a期を中心に）
東京都・神奈川県：武川、宇佐美、村本。埼玉県南部も加える。
下総考古研究会からのコメント：大内ないしは建石。千葉県側の視点からのコメント。
山梨県・静岡県：甲府盆地を今福。八ヶ岳山麓を閩間。曾利の議論から関東と中部を繋ぐ。
長野県以西：吉川。梨久保Bで木曾と東海を繋ぐ。
北信：寺内。
東海地方（北陸・西日本含む）からのコメント：瀬瀬。
 - *南関東での9c期の位置付け、中部・伊那での梨久保Bの位置付けを事前に議論しておく。山梨・中部は曾利についてのすりあわせもおこなっておく。
- (2)2日目（住居中心）発表者の変更は域内で調整の上報告願います。
- ・竪穴住居の形態の検討
東京都・神奈川県：武川、宇佐美、村本。
山梨県：櫛原。
長野県：吉川。
東海地方：高橋建。
 - ・出土状況の理解
遺構調査法について：下総
出土状況の理解：黒尾
年代測定との関係：小林謙
分布論：津村
 - ・全体の質疑応答およびコメント

3. 準備のスケジュール

7/24・25：本番
6/19・20：最終打ち合わせ。
6/15：要旨締め切り。国立歴史民俗博物館小林謙一に。
5/7：資料集締め切り。域内で集約後、国立歴史民俗博物館小林謙一に。

4. 資料集作成要項訂正（別紙参照）

- ・住居は1/100ないし1/150。キャプションでそれぞれスケールを入れる。
なるべく、炉も分かるように。
- ・遺物は完形品中心。破片は、必要最低限のみ。

- 9c期中心の重要な住居出土資料。9b期から10a期までは、必要に応じ入れて良い。地名表、住居一覧（少ない地区は一緒でも良い）、縮尺任意の県別白地図、必要に応じて別に20万分の一地形図。右上に地域別に「神奈川1」などのページ数を、住居資料から入れる。地名表には「神奈川1」などの地域別ページ数を入れる欄を作り入れる。
- 資料集順番は、東京（埼玉）、神奈川、山梨、八ヶ岳西南麓、北信、伊那谷・木曾谷、静岡、愛知、岐阜、北陸各地域内で、それぞれ例言、地図、地名表、住居一覧、住居資料・・・・・・の順。
- 編年表は、関東、山梨・静岡、東海北陸で作成。後日、黒尾から別に仕様を送る。

資料集